

今、自分にできること

# 差別をなくす

## 実践行動



あいさつで安心できる学校を目指す平田野中学校の生徒会の皆さん



## 差別をなくすためにまず大切なことって？

人権教育では、正しい知識を得ることや、思いやりの感性を育むことも大切ですが、人権を守り差別をなくすための「実践行動」ができるようになることも重要です。

「実践行動」とは、差別的な言動に出会ったときに、差別的発言であることを指摘したり、差別を解消しようと行動したりするなど、具体的な行動を起こすことです。社会問題であるSNS上での誹謗中傷の書き込みや、個人情報を晒す動画投稿

などに対して、多くの人々が、その問題点を指摘したり、問題を解決しようと行動を起こしたりしています。

こどもたちも同様に、こうした姿勢や行動がさまざまな場面でできるよう人権学習に取り組んでいます。私たち自身も、自らの言動や生活を振り返りながら、全ての人々が安心して過ごせる学校や社会をつくるため、「今、自分にできること」を考え、実践行動につなげていきませんか。



## 中学生ヒューマンライツサークル（旧：中学生人権ネットワーク）

市内の中学生が人権教育センターで、月に1、2回程度人権について考えたり、話し合ったりしている人権サークルです。人権劇やスライドなどを制作・発信し、差別をなくし人権を大切にする行動を広げていくことを目指しています。

### サークルメンバーの一言

いじめや差別をなくすこと、友だち関係などについて、安心して話せて楽しいです。このような場が、学校や普段の生活でも作ってほしいと思います。



▲自分の思いをワークシートに書き入れる中学生たち

## 市内10中学校区 「人権フォーラム」

毎年12月ごろ、各中学校区で、小学生と中学生の代表者が集い、人権について話し合いを行っています。

そこでは、各学校で話し合ってきた身近な人権問題に対して、「何が問題なのか」「自分ならどうするのか」など、差別をなくし自分らしく日々を過ごすための考えや思いを交流し合っています。ここで話し合った内容は各学校で還元し、それぞれの人権学習に生かしています。

### 中学校区の担当教諭の声

司会進行を務めた中学生の「いじめや差別をなくしていきたい」という熱意が小学生にも伝わり、差別をなくす展望を踏まえた活発な討議ができたと思います。



▲いじめや差別をなくす行動について話し合う児童・生徒

## 人権作文や人権ポスター などでの啓発活動

市内の小・中学生は、毎年人権に関する作文やポスターの制作を通し、一人一人の人権を大切にする思いを、文書や絵で表しています。このような活動や発信も「差別をなくす実践行動」です。

年間を通して、人権に関する知識を得たり自らの人権感覚を高めたりするなど、各小・中学校で人権学習が進められています。

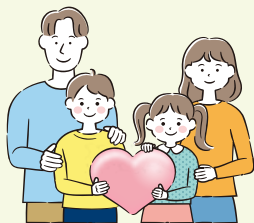
▼▶ 全ての人が生き生きと過ごせる学校や社会を願い、自分の思いを表現した人権ポスター



令和7年度小学校の部:最優秀作品  
（鼓ヶ浦小学校1年 後藤 桃花さん）



令和7年度中学校の部:最優秀作品  
（大木中学校3年 加藤 涼さん）



### 私たちにできること

現代社会には、まだまだ不合理な迷信や決めつけなどが多く存在しています。例えば「ひのえうま丙午生まれの女性への偏見」もその一つです。

来年、2026年がその丙午の年に当たります。

その時に生まれてくるこどもに偏見なく喜ぶことができるようにしていくことが、私たちにできる差別をなくす第一歩ではないでしょうか。

また、人権教育の目的は「自他を大切にするこどもを育てること」です。そのためには学校以外の家族や地域でも、こどもが自尊感情を持てるように「がんばってるね」「とてもいいよ」などのプラスメッセージの声掛けをしていくことが大切です。こうしたことも人権を大切にする私たちにできる行動の一つだと思います。



鈴鹿市人権教育  
アドバイザー

にし しげる  
西 繁 さん



# こどもたちの人権作文

学校で人権について学んだ児童・生徒の皆さん。自らの経験をもとに記した「人権作文」について、代表作品をご紹介します。

## 好きなものをえらびたい

ぼくは、2年生の3学期に、3年生から使う習字道具をえらびました。ぼくは、ミッキーのデザインの習字道具をえらびました。キラキラしていて、ミッキーのキーホルダーがついていました。

ぼくがミッキーの習字道具を選んでいると、お兄ちゃんが、「なんでミッキーなん？こっちの方がいいのに。」と、炎がらの習字道具を指して言いました。ぼくは、「ミッキーがいい。」と言いました。すると、お兄ちゃんは、「そんなに言うならそれにしな。女っばいけど。」と言いかいになりました。「女っばいとか、男っばいとか

やまじ はると  
河曲小学校3年 山路 悠仁さん



決めなくていいのに。」と思いましたが言い返すことができませんでした。

3年生になり、みんなの習字道具を見るとぼくと同じミッキーがらの習字道具は、女の子しか持っていないでした。「炎がらの習字道具にした方がよかったのかもしれない」と思うことがあったけど、だれが何を持っていたてもいいと思います。

自分のまわりにも男女での決めつけがあることに気づきました。これからは、男女関係なくすごすことができるように、きちんと言葉でも伝えたいと思います。



## 人の心の中の人けんを大切に

わたしのお母さんは、7月の最初のころに左目に病気が見つかりました。みやくらく まくしん せいけつかん脈絡膜新生血管という視界の一部がぼやけたりゆがんだり見えて、ほうって置くと視力がどんどん低下していく病気です。大きな病院じゃないと治りようがないと言われたので大学病院に行きました。わたしは、とても心配だったので学校から帰ってきてから詳しく話を聞くと、わたしが今じゅぎょうで習っている人けんのことにとっても関わる話だなと思ったので、そのことについて書こうと思います。

お母さんは、病気の進行をおさえるために目に注射をうったので、顔の半分がかくれるくらい大きな眼帯をつけてもらったそうです。車の運転はしてはいけないうので病院から駅まで久しぶりに町中を歩いてみると、この世の中は体が不自由な人でもあまり不便な思いをすることのないように道が整えられているんだなということに気づいたそうです。このように現代の「町なみ」は、

よしだ めい  
白子小学校5年 吉田 芽生さん



できる限りだん差がなかったりたくさんの点字ブロックがあったりと、みんなが好きなときに好きな場所に行けるといいう人けんが守られるように整えられている一方、すれ違う人や電車の中ではジロジロといやな感じの見方をしてくる人もいたと、お母さんは言っていました。

わたしは、「人の心の中」の人けん意識は、まだうすいかなと思いました。わたしは、生まれた国がちがっても、身体が不自由でも、みんな同じ人間なんだからおたがいの人けんを大切に思い合うべきだと思います。じゅぎょうで習うまでは、「人けんとは」ということをあまり考えたことがありませんでしたが、いつも家族や先生や友達など、わたしの周りの人たちがわたしの人けんを大切にしてくれているから、わたしは毎日楽しくすごせているんだということを学校やお母さんのおかげで気づくことができました。なので、わたしも周りの

人たちの人けんを大切に思い、自分とちがう見た目の人やちがう考え方の人と出会っても人けんしん害のよな行動なんてしないように生きていこうと思います。

お母さんは病気が見つかったとき、もしかしたら左目が見えなくなるかもしれないのでとても落ちこんでいましたが、病気のおかげで体が不自由な人の気持ちが

少しだけわかることができたと言っていました。そして必要以上にジロジロ見られると気楽に外に出られなくなるから、自分たちは人に対してそういうことはやめようねと二人で話しました。こんなふうに人の気持ちがわかる人が、今よりもっとふえたら人けんがもっともっと守られる平和な世の中になるとと思います。

## 差別

ひろの しょうこ  
平田野中学校3年 廣野 祥子さん



私は、SNSで「外国人は邪魔だ」「外国人は自分の国へ帰れ」といった差別的な言葉を見かけました。何気なく書いたのか、何か原因があったのかよりも先に私はとてもショックを受けました。それをきっかけに「差別」について考えてみたいと思いました。

なぜそんな言葉が書かれるようになったのか自分なりに調べてみたところ、SNSで拡散されていた動画を見つけました。その動画では、電車の中で外国人と見られる男性が迷惑行為をしていました。この動画は大炎上しニュースにもなりました。「温泉で騒ぐ外国人観光客」と書かれた記事でした。日本の文化である温泉のルールを守らないといった内容でした。

私はこれらをみて、正直なところあまりいい印象を持ちませんでした。「やっぱり外国人ってマナーが悪いのかな。」「怖そう。」と思ってしまったこともあります。でも、そのとき私は、その動画や記事だけでたくさんの人をひとくくりにして考えてしまっていました。冷静になってよく考えてみると、日本人にもマナーの悪い人はいます。それなのに、一人の日本人が迷惑行為をしたからといって日本人全体がマナーが悪いとは言いきれません。迷惑行為は確かにいけないことです。しかし、いきすぎた発言をすることや一人の外国人がした行動だけを見て、外国人はみんなそうだと決めつけてしまうことはとても不公平だし、同じくらいいけないことだと思いました。

また、私は近所に住んでいるAさんの顔を思い出しました。Aさんは、2年ほど前に近くに引っこしてきた外国人の方で、お友達と住みながら、一緒に仕事へ通勤しています。最初は、ゴミ出しの日や当番を忘れてばか

りで、迷惑していました。でも、ある日私が学校から帰っている途中で、自転車のブレーキをかけてもぜんぜんかからないことに気づき自転車を押しながら歩いていると、Aさん達が後ろから来ていて道を開けると、Aさんが「大丈夫?」と声をかけてくれました。事情を説明すると、AさんやAさんの友達が助けてくれて家に送ってただけでなく、ブレーキまで直してくれたのです。私はものすごく反省しました。話したこともない人を勝手に決めつけていたからです。ゴミの日は、自治体がちゃんと説明していなかっただけで、当番の説明も日本語で分かりづらかったただだと分かりました。周りからきつい言葉を言われても困っている人を助けるそんなAさんが悲しむそんな日本はだめだなと思いました。外国人労働者の問題も最近増えていてAさんもそのことを話していました。

これをふまえて、外国人の方と一緒に過ごすには、日本の文化、ルールを分かりやすく説明し関わることから始めて、外国人というひとくくりの大きな主語にせず一人一人をみることを大切にしてほしいです。自分もですが勘違いをしてしまうこともあると思います。ですが、しっかり見直して反省すれば、仲を深めることもできます。実際にわたしはAさんと仲よくなることができ初めて外国人の友達ができました。自分がしっかり向き合った結果だと思います。SNSなど情報がよく回る現代ですが、話して関わることの方が大切だし、大切にすべきだと思います。



今回の特集に関するご意見・ご感想は

教育支援課 ☎382-9055 📠382-9053 ✉ kyoikushien@city.suzuka.lg.jp